



Yokosuka
General Hospital
UWAMACHI

チーム医療における特定行為研修修了者の 活動状況と今後の展望

公益社団法人 地域医療振興協会

横須賀市立うわまち病院

看護部長 伊藤 佳子

病院概要

- 開設：平成14年7月1日
- 開設者：横須賀市長
- 運営：公益社団法人地域医療振興協会
- 許可病床数：417床
- 高度急性期病院
- 地域医療支援病院
- 臨床研修指定病院
- 入院基本料：急性期一般入院料1



▶ 2022年度実績

- 平均在院日数 一般病床(11.9日)
回復期リハ(93.2日)
- 手術件数 5,920件 / 年
- 救急車受入 5,860台 / 年
- 紹介率: 84.2% 逆紹介率: 86%

地域医療振興協会について

▶地域医療振興協会の主たる目的

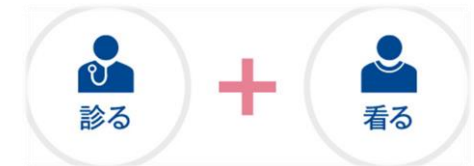
「医療の提供がままならない山間へき地過疎地における医療の提供」の推進

協会運営施設 病院:26 診療所:41 老健:8 複合施設:10

▶JADECOM NDC研修センター

⇒ 2015年にNDC研修センターが創立し、急性期医療から在宅医療を支えていく看護師の養成がスタート

▶ 特定ケア看護師とは、特定行為を実践するだけでなく、臨床推論をもとに「診る」と「見る」とで患者さんを全人的にとらえ、医療・看護を提供する看護師



協会運営施設(病院)

2023年12月1日現在



公益社団法人
地域医療振興協会
Japan ASSOCIATION FOR Development of Community MEDICINE

看護部紹介

- 看護職員数 365名(2022年度)
- 専門看護師:急性重症患者看護 1名
- 認定看護師:10名(A:A課程 B:B課程)

クリティカルケア	A	2名	小児救急看護	A	1名
皮膚・排泄ケア	B	2名	緩和ケア	B	1名
感染管理	A	1名	認知症看護	A	1名
新生児集中ケア	A	1名	集中ケア	A	1名

- 認定看護師教育課程受講中:2名

手術看護	B	1名	脳卒中看護	A	1名
------	---	----	-------	---	----

特定行為研修修了者(21区分38行為):7名

研修前の所属	看護師 経験年数	特定 看護師	所属	主な活動	
ICU 集中ケア認定看護師	26年目	6年目	総合診療センター	JADECOM-NP・NDC研修センター業務 地域支援	RRS* ・ LST*
ICU 救急看護認定看護師	22年目	5年目		ICU入院患者管理(専従)、新患外来	
緩和ケア認定看護師(専従)	17年目	4年目		入院患者管理、緩和ケア	
手術室	16年目	4年目		手術室(専従)	
循環器内科・心臓血管外科病棟	15年目	3年目		ICU入院患者管理(専従)、新患外来	
救命救急センター(病棟)	9年目	3年目		入院患者管理、救急外来	
救命救急センター(病棟)	11年目	1年目		臨床研修中:入院患者管理	

* RRS:心停止やショックをはじめとする重大な有害事象へ至る前に、症状を早期発見し介入に繋げる医療安全管理システム

* LST(Line Support Team)末梢留置型中心静脈カテーテル(PICC)により静脈ライン確保をサポートするチーム

特定行為研修修了者（診療部配属） 活動内容

所属：総合診療センター

業務：入院患者管理（主に終末期移行期・終末期の患者を担当）

Line support Teamの活動

Rapid Response Systemの活動

緩和ケア認定看護師としての実践・指導・相談

アドバンス・ケア・プランニングに関する活動

緩和ケアチームの運営

主任看護師としての活動 など



1日のタイムスケジュール

時間	内容
8:00~8:45	総合診療センター 朝カンファレンス
8:45~9:15	チームカンファレンス
10:00~12:00	本日のTO DO、処置など
12:00~13:00	休憩（曜日によっては勉強会）
13:30~14:00	病棟退院支援カンファレンス
14:00~16:30	処置、PICC挿入、チームラウンドなど
16:30~17:00	総合診療センター タカンファレンス

*** 病棟からの相談などは随時対応、RRS当番の日は専用PHSを持ち対応**

LINE SUPPORT TEAM PICC挿入 RAPID RESPONSE SYSTEM(RRS)



他科からのPICC挿入依頼を受け実施。
RRSも当番でPHSを持ち当番制で担当しています

病棟多職種退院支援カンファレンス



患者の治療方針の共有
現場スタッフからの情報提供

多職種でのゴールの共有

特定行為研修修了者：区分別科目選択：2名

研修前の所属	看護師年数 特定看護師	区分別選択科目		所属	
皮膚・排泄 ケア認定 看護師 (専従)	27年目 /4年目	3区分	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷管理関連 ・栄養及び水分管理にかかわる薬剤投与関連 ・栄養に関わるカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連 	看護部	創傷管理
	24年目 /5年目	3区分	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷管理関連 ・栄養及び水分に関わる薬剤投与関連 ・創傷ドレーン管理関連 		



皮膚・排泄ケア特定認定看護師 活動内容

チーム連携	褥瘡回診 フットケアチーム回診	スタッフ指導 管理方法をスタッフと共有
	微量元素チーム	カンファレンス 必要な採血オーダー
特定行為実践		主治医・関連医師への報告 デブリードマンの実施 陰圧閉鎖療法の実施
地域連携	退院支援	MSWとの連携 創傷管理の進捗や処置方法の共有
	訪問看護ステーションとの連携	オンラインを活用して情報共有 同行訪問の検討と実施 定期的な「褥瘡学び塾」実施 症例検討会

修了者の活動を推進する上でのポイント

研修受講前

- 特定行為研修制度についての理解
- 看護部や関連部署に情報提供
- 自施設のニーズ、研修修了者に期待する役割などの検討
- 研修受講者の選定

研修受講中

- 研修受講者の業務調整
- 自施設実習にむけての準備（施設内での周知、指導にあたる医師との調整）
- 研修終了後の配置や活動について調整

研修修了後

- 特定行為研修管理委員会の設置（活動内容や問題点を共有）
- 活動内容を院内に周知
- 指導体制の調整・手順書の見直し

修了者がもたらす効果

【診療部】

1. 医師が不在時でも、タイムリーに治療や処置を進めることができる
2. 看護師の視点があるため、他職種との連携がよりスムーズである
3. 医師と看護師をつなぐ役割を担っている
4. 医師の業務負担軽減

【看護部】

1. 患者の状態変化時に相談しやすい
2. NPPVや人工呼吸器患者の調整やケアの相談
3. 医師不在時に処置などを依頼することができる

課題と展望

▶ 特定行為研修を受講したいという看護師が少ない

⇒ 研修に必要な時間や費用がかかること、また研修内容が難しくついていけないのではないかという声も多い

・特定行為研修制度について、正しい情報を提供する

・特定行為研修修了者が、自身の体験談や活動をアピールする

▶ 特定行為研修修了者の評価ができていない

⇒ ・実践能力の評価や特定行為研修修了者の導入効果について
定期的な評価が必要

・導入効果を院内周知することは、今後の活用拡大につながる

おわりに

▶ 特定行為研修修了者がより活躍できる組織

- ・研修受講にむけてのサポート
- ・領域別パッケージ研修受講の検討
- ・医療職に向けた周知活動(院内・院外)
- ・看護師の労務管理・キャリア支援

